

(銀のエンジェル賞 小学生中高学年の部)

## 安物どろぼうやってきた

小四・金子 絵理

根戸真理(ねとまり)さんは、練馬区の端っこに住んでいる、ちよつぷりお金持ちなオバさんです。宝石をコレクションしていて、ダイヤモンドやルビー、サファイア、エメラルドなどを持っています。

「私って、宝石をこんなに買えるほど、お金持ちなのね」と思いながら、その宝石を、一日に一回だけ見るのが習慣になっています。

根戸さんは、いつものように、ベランダで自慢の宝石を見ていました。一本三五〇円の梅酒を飲みながら……。

「あら、なんかベトベトしているわねー」  
いつのまにか、梅酒をこぼしていました。とりあえずティッシュを持ってくると、ベランダに、一人の見知らぬ男が立っていました。けむくじやらで、ひげが八の字になっているその男は、

「そいつをよこせ！」

と言いました。すると根戸さんは、

「この宝石はあげませんよ」

と宝石を後ろにかくしました。しかし、男はどんどん根戸さんに近づいてきます。宝石を盗ろうとしたと思いきや、その手は、ティッシュ箱をつかんでいました。そして、急いで十枚ほどティッシュを出し、ズズ、ズズズツと、おもいつきり鼻をかみました。気がつい

---

たら、男とティッシュ箱は消えていました。あとでわかったのですが、このどろぼうは、あまり価値のない安物を盗むのだそうです。

それから一ヶ月ほどたったある日、武申服頼（たけざるふくより）という人の、青山一丁目の家に、予告状が届きました。予告状には、「一ヶ月以内に大物を盗みます。どろぼう」と書いてありました。武申さんは、ご先祖の武申言玄（たけざるごんげん）という人の、よろいや刀を持っていました。予告状には、大物と書いてあったので、このよろいや刀などを盗まれるのではないかと、武申さんは思いました。実はこの刀、竹光という名刀で、ご先祖の言玄が、戦によく使っていたものだったのです。

「こりゃ、大変じゃ！」

急いで警察に連絡しました。警察は、毎日十人がかりで見張りをしました。予告状が届いてから三週間ほどたったとき、どろぼうが庭の中に入ってきてしまいました。どろぼうは言いました。

「いきなりですが、私は何を盗むと思えますか？」

武申さんは、

「もちろんよろいや刀じゃろ」

と答えました。

「違いますね」

「ではお金かね？」

「それも違います」

と言うなり、普通に部屋に入っていました。それが、あまりにも普通な動きだったので、武申さんが止めるひまもなく、どろぼうを家に入れてしまいました。と、どろぼうは、自分のふところからハンマーを出し、

「ガッシャーン」

---

---

電球を割りました。

「そ、それで、なにをするきじゃ？」

武申さんは言いました。

「これを盗むのですよ！」

どろぼうは、電球の中のフィラメントだけを取って、本体は投げ捨てました。

（フィラメントとは、電球の光を出している部分である）

そして、事前に空けておいた穴の中に入って、どこかへ行ってしまいました。結局、よろいと刀は無事でした。武申さんは、びっくりしたのと嬉しいのとで、なんだか変な気持ちになっていました。あとで警察に、フィラメントを盗まれたと被害届を出したのですが、フィラメントもどろぼうも、結局見つかりませんでした。

根戸さんは、どろぼうのことは忘れて、今日も宝石を見えています。だけど、梅酒ではなく、ウーロン茶を飲みながら。

武申さんは、というと、いつもと変わらず、普通にくらしています。

---